実習で学んだこと

中学1年生のクラスを担当させていただいた。時期が9月ということもあり、生徒たちは中学生活にも十分に慣れて、挨拶や行動面でだらしなさが出てきている時期だと感じた。そういった時に注意をするのがとても大変だった。場にふさわしい行動であったり、服装であったりを実習生だから、といて間違っている生徒を見逃すのではなく、注意することに初めはとても苦労した。

また、学校は落ち着いて学校生活を送れる生徒が多く、学力についても上向き傾向にあり、学習意欲の高い生徒が多いが、一年生に当てはまらないのかな、と思う場面もあった。学校祭シーズンでもあり、1~3年生までが集まる場面ですごくそれを感じた。中学生と言っても1年生と3年生ではまるで違い、1年生の時に先生方が指導されたから、落ち着いた3年生の姿があるんだらうと感じた。

実習校には児童福祉施設に入所している生徒もおり、入所生徒は様々な課題を背負わされていた。そのため、該当生徒は社会や大人への不信感が強く、かれらの社会的自立の支援、またそのための学力保障には各児童福祉施設との連携が必須であることを改めて感じた。サポート体制、教師同士での情報共有がとても密にされていて、生徒をチームで支えるということを学ばせていただいた。

そして、実習校での授業での取り組みとして、グループを構成し、仲間と共に思考を練り上げる協働的・探究的な学習を展開していた。授業の中で、話し合いの時間を設け、教師は答えを教えない、生徒の主体性に任せる、ということと生徒が授業に積極的に取り組むことができていて、また、それらが私生活でも活かされていくのだろう、と感じた。

実習を終えてこれから活かしたいこと

全部で20コマ近くの授業をさせていただいたが、クラスに学力差があるなかで、一人一人の生徒を大切にできる授業とはなんだろう、と考えることが多くあった。誰もが退屈しない授業にしたいと思い、少し難易度が高い課題を出すと、下位層の生徒を取り残してしまう。だからといってみんなが解けるような問題では授業を通しての変容を感じられない生徒が増えてしまう。そういったなかでみんなが授業を通して学びがあり、なおかつ英語を楽しんでいると思ってもらえる授業をしたいと感じた。しかし、学びの中で楽しいと思える瞬間を常につくることは決して簡単ではなかった。

今回の実習ではできるだけペアやクラス全体で交流する場を作り、わからなければすぐに周りに助けを求められる場面を増やした。全員が授業で単元やその日の目標を達成できるような、全員、クラスの一人一人を大切にできる授業を目指したいし、教育実習がこれから現場に出たときに活かされるよう、まだまだ勉強していきたい。